

平成26(2014)年度社会福祉法人あかつき福祉会
事業報告書

社会福祉法人あかつき福祉会

2014 4月



お花見 <わんすてつ>

5月



バーベキュー大会 <ささゆり園>

6月



せいなん幼稚園児とさつま芋の苗植え
<あかつき園・ワークセンター>

7月



所外活動 <あかつき園・ワークセンター>

8月



西南ジャンボリー



流しうどん <わんすてつ>



納涼祭



流しそうめん大会 <ささゆり園>



プール活動 <ささゆり園>

9月



消防訓練

10月



宿泊旅行 <ささゆり園>

11月



いきいきふれあい広場

12月



もちつき大会 <ささゆり園>

2015 1月



鍋パーティ <あかつき園・ワークセンター>

3月



福祉の就職フェア出展

1. 平成26(2014)年度全体概要報告

(1) 経理処理チェック体制の強化【法人本部(総務課)】

平成26年度より監査法人による「自主監査」(大阪府社会福祉協議会実施事業)を導入し、定期的な監査を受審した。また、税理士事務所による日常的な経理事務処理に関してチェックを受ける回数も増やし、監査や税理士事務所によるチェックのなかで指摘を受けた事項については随時改善を図った。

(2) 第三者評価の受審【箕面市立あかつき園・ワークセンターささゆり】

指定管理者アンケート結果を踏まえ、提供しているサービスについて客観的な視点での評価を受けるため、箕面市立あかつき園・ワークセンターささゆりにおいて大阪府社会福祉協議会福祉サービス第三者評価センターによる評価を受審した。

(3) 生活訓練から生活介護への事業移行対応

【箕面市立あかつき園・ワークセンターささゆり】

箕面市立あかつき園・ワークセンターささゆりにおいて、平成26年度より生活訓練事業を生活介護事業に事業移行し、生活介護事業の定員拡大を行った。

旧生活訓練利用者の生活介護への円滑な移行を行うため、生活介護全体での年度当初のチーム編成変更は最小限に留め、その後の状況を見極めて年度途中のチーム編成変更を行うなどの対応を行った。

(4) 指定管理者に再選定【箕面市立障害者福祉センターささゆり園】

箕面市立障害者福祉センターささゆり園においては平成26年度の当初7ヵ月間(平成26年4月~10月)、それまでの指定管理期間の延長として指定管理者を担っていたが、次期指定管理(平成26年11月1日~平成31年3月31日)の再公募が行われ、再応募した結果、次期指定管理者に選定され、引き続き円滑に事業を実施した。

(5) 第10つながりの家における消防法対応

【地域生活総合支援センター】

箕面市消防本部の立入検査の結果、第10つながりの家に自動火災報知設備及び消防機関に通報する設備の設置が必要との指導を受け、その対応として転居を前提に転居先の確保に努めたが、結果的に転居先の確保には至らず、第10つながりの家に必要設備を設置して対応することとした。

【平成26(2014)年度実施事業等】

1. 法人本部(総務課)

2. 箕面市立あかつき園・ワークセンターささゆり〈指定管理〉

- 【実施事業】①生活介護事業 定員70名
②就労継続支援B型事業 定員10名

3. わんすてっぷ

- 【実施事業】生活介護事業 定員15名

4. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園〈指定管理(⑤を除く)〉

- 【実施事業】①園管理運営事業
②生活介護事業 定員20名
③日中一時支援事業(放課後教室)
④施設入浴サービス事業
⑤社会福祉増進事業

5. 地域生活総合支援センター

- 【実施事業】①共同生活援助事業
(第2つながりの家)
②短期入所・日中一時支援事業
(箕面市障害者ショートステイ室)
③居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援事業
(ヘルパーステーション「ウイズ」)
④相談支援事業
(ウイズ)

2. 法人本部（総務課）

(1) 概要

- 介護職員の確保（特に夜間勤務を担う職員）に向けて様々な取り組みを進めたが、1年間を通して確保が難しい状況が続いた。しかし、ハローワークへの求人票の出し方を工夫するなどの取り組みを行った結果、年度末には支援職員の複数名の採用に繋がった。
- 今年度より監査法人による「自主監査」（大阪府社会福祉協議会実施事業）を導入し、定期的な監査を受審した。また、税理士事務所による日常的な経理事務処理に関してチェックを受ける回数も増やし、監査や税理士事務所によるチェックのなかで指摘を受けた事項については随時改善を図った。
- 平成27年度からの新会計基準移行のため、経理規程の見直し等の対応を行った。また、新会計基準のもとでの平成27年度予算策定を行った。
- 新たな長期計画について、プロジェクトチームをつくり検討を進めたが、最終的な取りまとめには至らなかった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計画	実施結果
1	新会計基準への移行対応	○新会計基準移行に向けた規程等の見直しを行い、平成27年度からの移行体制を整備した。 ○新会計基準に則った平成27年度予算を策定した。
2	経理事務のチェック体制の強化	○監査法人による「自主監査」（大阪府社協実施）を導入し、定期的な監査を受審した。 ○税理士事務所による日常的な経理事務処理に関するチェックを受ける回数を増やした。
3	新長期計画の作成	○プロジェクトチームを発足し、新長期計画づくりを進めた。しかし、様々な意見の整理・集約に時間がかかり、最終的な計画確定までには至らなかった。
4	人材採用力の強化	○求人チラシ以外に、近隣マンションへのポスティング、就職フェアへの2度の出展などの取り組みを行った。 ○正規職員採用試験（経験者）を2回にわたって実施したが、応募者数が少なく、また求める人物像と合わなかったこともあって採用には至らなかった。 ○支援職員・臨時職員の確保の厳しい状況が続いたが、ハローワークへの求人票の出し方を工夫するなどの取り組みの結果、春の支援職員定期採用では外部より5名の支援職員を確保することが出来た。

	計 画	実施結果
5	情報発信力の強化	○より見やすいページとなるようホームページのリニューアルを行った。 ○ブログの定期更新は、目標の10件/月までは達成できなかったが、4~5件/月の更新を行った。
6	あかつき園建替計画の検討	○箕面市と継続協議は続けているが、今年度具体的な建替計画の策定には至らなかった。
7	虐待防止・サービス向上の取り組み	○昨年度起ち上げた虐待防止・サービス向上委員会を今年度2回開催し、虐待防止・サービス向上に向けた取り組みの検討を行った。
8	平成25年度アンケート結果を踏まえた取り組みの推進	○各施設において、来所者アンケート等の取り組みを引き続き実施した。 ○今年度、あかつき園・ワークセンターささゆりにおいて大阪府社協の第三者評価を受審した。

(3) 今後について

- 介護職員の確保に向けては、ハローワーク対応を基軸に、就職フェアへの出展、求人チラシへの掲載を組み合わせた対応を図っていく。
- 平成27年度より移行した新会計基準に則った処理を適正に行っていく。
また、引き続き「自主監査」を受審し適正な経理事務処理を行っていく。
- プロジェクトチームのもと、引き続き新たな長期計画の検討を進め、平成27年度内の取りまとめに向けて取り組んでいく。

(4) 理事会・評議員会開催状況

<理事会>

- ・第1回 平成26年4月1日
案件 = 理事長選任、副理事長選任 など
- ・第2回 平成26年5月28日
案件 = 平成25(2013)年度決算 など
- ・第3回 平成26年10月29日
案件 = 平成26(2014)年度補正予算(第2号) など
- ・第4回 平成27年3月30日
案件 = 経理規程一部改正 など

<評議員会>

- ・第1回 平成26年5月26日
案件 = 平成25(2013)年度決算 など
- ・第2回 平成26年10月27日
案件 = 平成26(2014)年度補正予算(第2号) など
- ・第3回 平成27年3月27日
案件 = 経理規程一部改正 など

3. 箕面市立あかつき園・ワークセンターささゆり

＜就労継続支援B型事業＞

(1) 概要

- 年度途中より、ごみ袋の製造及び公共施設用ごみ袋の配送を箕面市内他事業所と試行的にシェアを行った。製造及び配送ともに目標数に対する達成率は下回ったが、製造に関しては他事業所とシェアすることで生産能力が大きく向上し、配送に関してもそれぞれの事業所のペースで出来る作業開拓に寄与することが出来た。
- 大阪府社会福祉協議会福祉サービス第三者評価センターによる評価を受審し、実施事業に係る外部の視点によるチェックを受けた。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	生活訓練から移行する利用者の安定利用	<ul style="list-style-type: none"> ○体験利用等により、1名の利用者の生活訓練からの移行を円滑に行うことが出来た。 ○しかし、当該利用者が平成27年に入り、安定した利用が困難となったため、検討の結果、あかつき園・ワークセンターささゆりの生活介護事業において体験利用の期間を設けた上で、平成26年度内に移行を行った。
2	安定的な経営のあり方を検討 (1)新卒利用者及び生活訓練からの移行者の安定利用 (2)就労継続支援B型事業の検証・見直し	<ul style="list-style-type: none"> ○平成26年度、新卒利用者の受け入れはなかった。生活訓練からの移行者については上記「1」のとおり。 ○重い障害のある利用者の働く場であり、また、平成26年度より進めているごみ袋製造・配送作業に係る市内他事業所との作業シェアにおいても重要な役割を担っていく立場であることを自覚し、引き続き安定的な事業運営を継続していく必要がある。
3	適切な進路支援の実施及び社会資源の的確な情報把握	<ul style="list-style-type: none"> ○箕面市内他事業所への実習を実施し、受け入れ可能な事業所もあったが、利用者本人の希望もあり、結果として進路移行に結びつけることは出来なかった。 ○箕面市内他事業所からの情報や自立支援協議会での情報の把握に努めた。
4	多様な働く機会の経験	<ul style="list-style-type: none"> ○箕面市内他事業所において8名の利用者が延べ54日間実習を行った。 ○製袋作業では、これまでの作業に加えて、ごみ袋の計量、敷地外倉庫への運搬等を取り入れた。
5	し尿中継所に代わる箕面市指定ごみ袋保管場所の確保	<ul style="list-style-type: none"> ○瀬川地区敷地内により多くの保管場所を確保するため、温室1棟に簡易な工事を施し、保管場所を増やした。 ○平成26年度は使用することができたが、将来にわたり使用を担保されているものではないため、引き続き瀬川地区敷地以外の保管場所の確保を検討していく。

	計 画	実施結果
6	指定管理者アンケート結果を踏まえた対応 (1)-1 より多様な視点での意見の把握 (1)-2 家族への情報提供機会の強化 (2) 進路支援後の支援策 (3) 職員の資質・専門性の向上	○年間計画に基づき、全体懇談会、チーム別懇談会、各利用者との個別懇談を実施し、活動の見学も実施した。 ○昨年度、他事業所に移行した利用者の状況について、半年に1回程度、その後の状況確認を行った。 ○発達障害のある人への支援など障害特性に係る外部研修に参加し、その内容や支援方法等について、職員間で共有を図った。

(3) 今後について

- 平成26年度試行的に実施した、ごみ袋の製造及び公共施設用ごみ袋の配送作業の箕面市内他事業所とのシェアを本格的に実施し、軌道に乗せていくため、シェア実施事業所等との連携を強化していく。
- 平成26年度受審した大阪府社会福祉協議会の第三者評価だけでなく継続的に外部の視点を取り入れる取り組みとして、大阪府社会福祉士会が実施している施設サポートサービス（社会福祉士数名が訪問調査を実施し、施設への助言等を行うサービス）を導入するとともに、家族等に対してよりサービス内容を知ってもらうための取り組みを検討・実施していく。

(4) 主な活動内容

①生産活動

ア) 箕面市指定ゴミ袋の生産

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
年間売上金額	83,705,923円	75,535,482円	84,659,036円

イ) 利用者1人あたりの月額平均工賃額（特別工賃を含んで換算）

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	前年比
就労継続支援B型	56,095円	48,038円	48,038円	100.0%

②施設外支援

実習先	参加人数(実数)	参加延べ日数	職 種
箕面市障害者事業団	7名	44日	緑化部門(花壇管理等)/5名・37日 喫茶/1名・3日 リサイクルセンター/1名・4日
つながり工房ふるる	1名	10日	菓子製造

③その他の活動

- 健康活動(ラジオ体操、ウォーキング、ダンス、栄養教室、体重測定等)
- 生産活動(製袋、館内清掃等)
- 創作活動(手芸、描画等)
- 社会活動(買い物、公共交通機関の利用、所外活動等)

(5) 在籍者状況 (平成27年3月31日現在)

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数
平成26年度	10名	24.7才	6.8年	97.0%	9.7人
平成25年度	9名	24.2才	6.2年	96.4%	9.6人
平成24年度	8名	23.8才	5.1年	95.0%	8.2人

平成26年度利用者 障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	0名	1名	6名	3名	0名	0名

3. 箕面市立あかつき園・ワークセンターささゆり

＜生活介護事業＞

(1) 概要

- 生活訓練事業を生活介護事業に事業移行し、定員拡大を行った。旧生活訓練利用者の生活介護への円滑な移行を行うため、最初のチーム編成変更は最小限に留め、その後、利用者の障害特性や相性などを見極めて、年度途中のチーム編成変更を行うなどの対応を行った。
- 大阪府社会福祉協議会福祉サービス第三者評価センターによる評価を受審し、実施事業に係る外部の視点によるチェックを受けた。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	利用率向上、収入増に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○利用率は前年度比微増(93.5%→93.8%)であった。 ○欠席時対応加算は延べ171回算定し、平成25年度実績比237.75%であった。 ○定員の充足に向けた利用希望者への施設見学、体験利用等は実施したが、利用契約には至らなかった。 ○在宅者等の情報収集及び利用調整の実施までには至らなかった。
2	事業移行に伴う、定員拡大への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○生活訓練事業から生活介護事業への円滑な移行を行うため、年度当初の実施場所変更等は最小限に留めて対応した。
3	定員拡大に伴うチーム編成の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ○年度当初のチーム変更は必要最小限に留め、利用者それぞれの障害特性や相性を踏まえて、一部の利用者は平成26年度途中や平成27年度からの所属チームの変更を行うこととした。
4	進路支援対象者の選定方法の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ○選定方法の見直しまでには至らなかった。 ○重度重複障害のある利用者の受け入れが可能な事業所を確保することが極めて困難である現状を踏まえ、今後も箕面市と協議しながら、選定方法のあり方について継続して検討していく必要がある。
5	新規利用者の円滑な受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ○新規利用者で支援に特段の配慮を要する利用者1名について、必要に応じて個別対応を図ることができる体制は整えた。しかし、その後の適切な支援方法を見出すことに苦慮し、支援方法を探りながらの対応が続いた。
6	指定管理者アンケート結果を踏まえた対応 (1)-1 より多様な視点での意見の把握 (1)-2 家族への情報提供の機会の強化 (2) 利用者の意向及びそれに基づくサービス内容の客観的評価 (3) 職員の資質向上及び障害特性に係る専門性の獲得	<ul style="list-style-type: none"> ○全体懇談会、チーム別懇談会、各利用者との個別懇談を実施した。 ○ワークセンター棟1階チームでは「オープンワークデイ」を企画し、普段の作業や活動の様子を見学できる機会を設けた。 ○専門性獲得に向けた研修を各チームの会議内で実施し、支援や介護技術の深化に努めた。また、外部研修参加で得た知識や技術も会議等で報告を行い、職員間で共有を図った。

	計 画	実施結果
7	人員の確保と職員育成	<p>○年度当初は人員の確保が難しかったが、年度後半になって複数名を採用し、人員を確保することが出来た。</p> <p>○しかし、支援職員としての職責等を担ってもらうためには、今後も長期的視点で育成していく必要がある。</p>

(3) 今後について

- 利用者ニーズの変化に対応し、利用者の生活の質を上げていくため、利用者本人を取り巻く家族や計画相談事業者、他のサービス提供事業者との連携を深める努力をこれまで以上に行っていく。
- 平成26年度受審した大阪府社会福祉協議会の第三者評価だけでなく継続的に外部の視点を取り入れる取り組みとして、大阪府社会福祉士会が実施している施設サポートサービス（社会福祉士数名が訪問調査を実施し、施設への助言等を行うサービス）を導入するとともに、家族等に対してよりサービス内容を知ってもらうための取り組みを検討・実施していく。

(4) 主な活動内容

①生産活動

ア) 主な生産活動内容及び収入

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
箕面市指定ごみ袋の生産	8,664,700円	12,436,341円	7,640,259円
さをり製品等製造販売	134,388円	133,988円	146,184円
ペットボトル、アルミ缶等リサイクル	132,512円	178,375円	298,903円
農園芸	2,039,401円	1,267,870円	784,912円
ケーキ・パン等	558,395円	289,926円	0円
計	11,529,396円	14,306,500円	8,870,258円

イ) 利用者1人あたりの月額平均工賃(特別工賃を含んで換算)

平成25年度	平成26年度	対前年度比
14,352円	10,797円	75.2%

②その他の活動

- 健康活動(機能維持訓練・ストレッチ、ダンス、プール、ウォーキング等)
- 日常生活・社会適応訓練(図書館利用、買い物実習、調理実習、喫茶店、外食等)
- 創作活動(描画、貼り絵、手芸、季節イベントの飾り作り、コラージュ等)
- 文化活動(ビデオ観賞、音楽鑑賞、音楽活動、ハンドベル等)
- 社会活動(地域清掃、古切手の切り取り等)

(5) 在籍者状況 (平成27年3月31日現在)

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数
平成26年度	62名	27.4歳	8.7年	93.8%	60.6名
平成25年度	59名	27.2歳	8.5年	93.5%	56.8名
平成24年度	59名	26.9歳	8.1年	94.3%	57.1名

平成26年度利用者 障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	24名	26名	7名	5名	0名	0名

4. わんすてっぷ〈生活介護事業〉

(1) 概要

- 1日の平均利用人数15名に向けて、新規利用者募集を行い、新たに1名の利用者と新規契約を行った。
- 65歳に達した利用者1名の介護保険サービスへの移行について、中央地域包括支援センター・在宅ケアセンター・相談支援事業所ウイズ・成年後見人等と事前調整を行い、わんすてっぷの利用を継続しながら、併用していた他生活介護事業所利用分を通所介護(介護保険サービス)へ変更することとなった。
- 利用者の精神状況の適時把握・対応等に努めたことで、利用率の向上に繋がった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	法人独自事業としての安定経営 (1) 法定基準配置で受入可能な利用者の受入 (2) 利用率向上を目的とした送迎サービスの継続 (3) 独立採算による安定的な経営を図るため、利用定員拡大・施設整備案等の検討	○法人内事業所へ募集案内を行い、3名の応募に対し書類選考・体験実習の機会を経て、3月に1名の利用者と新たに利用契約を行った。 ○送迎サービスの実施及び体制の確保、利用者の精神状況の適時把握・対応に努めたことで、安定的な利用、利用率の向上に繋がった。 ○施設整備案等の検討までには至らなかった。
2	利用者・家族の高齢化への対応	○中央地域包括支援センター、虐待防止センター、相談支援事業等の関係機関や成年後見人等の情報共有を図り、利用者及び家族の生活状況を把握し、必要に応じて他サービスを紹介するなどの対応を行った。
3	支援体制の充実	○男性の支援職員を確保したかったが、男性の臨時職員の確保しかできなかった。更なる支援体制の充実に向けて、男性の支援職員確保が課題である。
4	ボランティアの定着・拡大	○年間行事計画に基づき、ボランティアへの積極的な情報提供を行い、定着化に努めた。それによりボランティアが定着し、所外活動においても利用者にとって有意義な計画・実施内容で行うことが出来た。
5	サービスの質的向上及び利用者アンケート結果に対する対応	○支援スキルの課題等に応じて、外部研修を受講し、各職員のスキルアップを図った。また、年2回の所属長による個別面談、現場においては、サービス管理責任者によるOJTを行うことにより、サービスの質的向上に努めた。 ○懇談を実施したり、イベント実施時には利用者の家族にも適時見学をしてもらった。

(3) 今後について

- 利用者・家族の高齢化に伴い、障害福祉サービス相談支援事業者と介護保険サービスケアマネージャー等との連携を図り、必要な支援の検討を行っていく。
- サービスの質的向上及び事業の安定的経営を図るため、男性の支援職員確保とOJT・OFF-JT等を通じた人材の育成に努めていく。
- 安定的な経営を図るため、利用定員の拡大・施設整備案等の検討を行っていく。

(4) 主な活動内容

- ①創作活動（手芸、工作、カラオケ、Wiiゲーム、さをり織り等）
- ②健康活動（フィットネス、ダンス、足浴等）
- ③専門職による相談・指導（機能維持訓練、嘱託医による相談、ダンス指導等）
- ④所外活動（万博公園、ユニバーサルスタジオジャパン）
- ⑤季節毎のイベント（花見、流しうどん、クリスマス忘年会等）
- ⑥生産活動

ア) 主な生産活動内容及び収入

	平成25年度	平成26年度	対前年度比
さをり製品等の制作・販売	32,800円	12,320円	37.6%
チラシ配布委託業務	62,335円	71,490円	114.7%
計	95,135円	83,810円	88.1%

イ) 利用者1人あたりの年額平均工賃

平成25年度	平成26年度	対前年度比
6,035円	4,930円	81.7%

(5) 在籍者状況（平成27年3月31日現在）

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数
平成26年度	17名	48.2歳	9.1年	95.9%	14.7名
平成25年度	16名	47.7歳	9.1年	93.5%	13.8名
平成24年度	15名	46.6歳	7.8年	94.5%	13.6名

平成26年度利用者 障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	0名	5名	8名	4名	0名	0名

5. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園<園管理運営事業> ※社会福祉増進事業含む

(1) 概要

- 箕面市よりささゆり園の指定管理者に選定され、引き続き平成26年11月1日から平成31年3月31日までの間、ささゆり園の管理運営を行うこととなった。
- 障害者等への理解を深めるための啓発事業として、平成26年度は自閉症のアマチュアカメラマン米田祐二氏の沖縄旅行を描いたドキュメンタリー映画「ぼくは写真で世界とつながる～米田祐二22歳～」の上映、chiharu氏によるミニライブ、主演の米田祐二氏・母親の米田千鶴氏・映画製作者の貞末氏によるトーク会を実施した。
- 図書コーナーの利用頻度が極めて低かったため、箕面市及び箕面市聴力障害者協会と協議を行った結果、新たにテレビデオ、DVDプレイヤーを設置し、手話通訳講習ビデオやDVDの無償貸出を開始することとなった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	既存8事業の見直しを検討・協議	○箕面市と現状課題（茶道・華道教室利用者の固定化傾向・利用の公平性、営利活動団体の利用制限など）について協議したが結論には至らず、今後も継続して協議を行っていく必要がある。
2	次期指定管理に向けた対応 (1)次期指定管理への応募の検討・準備 (2)給食業者選定(プロポコンペ開催)	○引き続き、指定管理者として選定された。 ○平成27年4月以降の食事提供業者について、企画提案競技方式にて業者選定を行った。 (業者名：株式会社テストィパル、委託料削減：年額372千円、温蔵庫の新規設置に伴い温かい給食の提供が可能となる)
3	施設利用基準のあり方を検討・協議	○上記「1」と同様、箕面市と現状課題等について協議を行ったが、施設利用の有料化(減額規定有)や駐車スペースのあり方等については、今後も継続して協議を行っていく必要がある。
4	障害者等の理解促進に係る啓発事業の実施	○上記「概要」のとおり。 ○近隣保育所との合同もちつき会を企画していたが、当日の悪天候により中止となった。

(3) 今後について

- 全事業の実施内容・効果を検証し、新事業への移行又は事業の廃止も含めて箕面市と継続して協議を行っていく。
- 「地域で生きる障害者問題市民講座」は、広報・事前宣伝の充実、実施内容・開催時期等を検討し、次年度も継続して実施する。併せて、地域の保育所、小・中学校等とのイベントを通じた交流も継続して行っていく。

(4) ささゆり園利用状況

	25年度	26年度	対前年度比
開館日数	321日	320日	99.0%
利用件数	1,889件	1,885件	99.3%
利用件数/1日	5.9件	5.9件	100.0%
利用者数	26,304名	25,717名	97.8%
利用者数/1件	13.9名	13.6名	97.8%
利用者数/1日	81.9名	80.4名	98.2%

事業名	25年度		26年度		対前年度比 (人数比)	
	件数	人数	件数	人数		
障害者社会参加促進事業	41	240	41	261	108.8%	
[内訳]	①茶道教室	20	103	20	107	103.9%
	②華道教室	21	137	21	154	112.4%
ボランティア育成事業	33	264	46	443	167.8%	
[内訳]	①手話講習会 「入門・基礎編」	23	182	35	405	222.5%
	②初級音訳講習会 <平成25年度は上級>	10	82	11	38	46.3%
啓発事業(市民講座<平成25年度は保育所交流>)	1	27	2	70	259.3%	
貸館事業	1,824	25,773	1,796	24,943	96.8%	
[内訳]	①障害者団体	689	12,628	607	11,524	91.3%
	②ボランティアサークル	579	7,246	595	7,372	101.7%
	③外郭・行政関係	136	3,005	225	3,396	113.0%
	④その他	357	2,807	328	2,604	92.8%
	⑤IT室	63	87	41	47	54.0%
合計	1,899	26,304	1,885	25,717	97.8%	

※会議室等使用団体数(平成27年3月31日現在)

- ・ 定期利用団体：36団体(対前年度比1増)
- ・ 随時利用団体：29団体(対前年度比6減)

【合計】65団体(対前年度比5減)

※グループの解散、稲スポーツセンター改修工事終了に伴い一時的に利用していた団体が利用しなくなった等

(5) その他

法人自主事業として、以下の事業を実施した。

○社会福祉増進事業

大阪府登録喀痰吸引等研修機関として、実地研修及び修了申請事務を実施した。
(修了者数延べ20名、うちあかつき福祉会職員延べ18名)

5. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園<生活介護事業>

(1) 概要

- 平成26年度は、医療的ケア(吸引・胃ろう)の必要な利用者1名が新たに利用することとなったが、年度途中で1名の利用者が退所したため、契約者数は22名で結果的に前年度と同様の契約者数となった。また、利用者の退所や利用者の長期入院等の影響により、平均利用率は減少し、介護給付費も微減となった。
定期通院(気管カニューレ交換、リハビリ等)や筋ジストロフィー等の進行性疾病、医療的ケアを含む重複障害、高齢化に伴う機能低下による欠席や入院等(肺炎、気管切開、腫瘍の手術等)により、今後の利用予測も厳しい状況になるものと推察される。
- 平成25年度に実施した園内での宿泊体験を発展させ、初めてとなる「宿泊旅行(箕面観光ホテル)」を実施した。医療的ケアを必要とする利用者の中には、初めて親から離れて宿泊された利用者もいて、利用者・家族からも「参加して良かった」との声が多くあった。職員にとっても、日中活動のみならず、利用者個々の生活全体の理解に繋がった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	利用者増に伴う進路支援の優先順位(年齢超過等)の検討	○介護給付費減算が生じるような定員超とはならなかったため、年齢超過に伴う他施設への移行等、進路支援順位のルール化には至らなかった。
2	幅広い利用者像(障害特性)に適したサービス提供体制の構築	○平成25年度に引き続き障害特性に応じた3班体制を実施し、適宜、体制の検証・見直し(利用者の班変更等)を実施した。
3	入浴支援体制の見直し	○利用者入浴日の変更等に合わせて支援体制を整えた。 ○適宜、相談支援員と連携を取りながら、利用者家族に社会資源等の情報を提供し、1件、訪問入浴及びヘルパーの導入が実現した。 ○箕面市へ現状の課題(入浴希望利用者の増加等)の協議を行ったが、結論までには至らなかった。
4	介護職による喀痰吸引等の実施	○一部職員へ喀痰吸引等実地研修を実施し、延べ18名が修了した。 ○喀痰吸引等実施マニュアルの作成・見直しを行った。
5	宿泊旅行実施に向けた検討	○上記「概要」のとおり宿泊旅行を実施した。
6	指定管理者アンケート結果を踏まえた対応 (1)-1 より多様な視点での意見の把握 (1)-2 家族への情報提供の機会の強化 (2) 職員の資質向上及び障害特性に係る専門性の獲得	○アンケート結果のフィードバック、定期的な内部での職員研修(月1回以上)等を実施することにより、職員の資質向上を図った。
7	重度重複障害者の地域生活に係る調査研究	○医療的ケアの必要な重度重複障害者の地域生活に係る調査研究として、滋賀県湖南市(社福)グロ「OPEN SPACE れがーと」(多機能型事業所)、吹田市にある(社福)さつき福祉会の新規グループホームの見学を行った。 ○各利用者の個別懇談及び定期的な家庭訪問により情報収集、ニーズ把握を行った。
8	人員確保	○ブログへの求人掲載、ハローワークへの求人登録、近隣への機関誌配布等情報発信を行ったが、職員の安定的確保には至らなかった。

	計 画	実施結果
9	医療的ケアが必要な新規利用者2名の受け入れに伴う看護師体制の構築	○複数名の看護師で常時2名体制を確保した。
10	介護技術の標準化への対応	○定期的に内部での職員研修(月1回以上)等を実施し、介護技術の標準化を図った。
11	送迎体制の見直し	○送迎の一部業務を箕面市シルバー人材センターに移行した。
12	地域への情報発信、交流	○ブログや機関紙の作成・配布を行い、近隣福祉施設との交流を定期的実施し、地域との連携強化を図ることが出来た。

(3) 今後について

- 医療的ケア実施体制の更なる充実（指導看護師による介護職研修の適時実施、医療的ケアマニュアル作成等）を図っていく。
- 医療的ケアを必要とする利用者へ安定的に送迎サービスを実施するため、順次実地研修を実施し、担うことができる職員を拡大していく。
- 宿泊旅行に向けた取り組み（夜間ケアの整理、支援体制検討など）を進めていく。
- 入浴サービスの見直し（入浴希望者へ上限週2日の入浴サービスを提供。入浴利用者は年々増加、平成27年度入浴利用者は開始当初と比べてほぼ倍の人数）を進めていく。
- 家族の高齢化による介護力低下に伴う生活支援（居宅介護、短期入所、入所施設等）についての情報提供を利用者・家族に行いながら、他事業所との連携を図っていく。
- 職員個別面談は継続実施し、職場風土の改善と職員定着率向上に努めていく。

(4) 主な活動内容

- ①健康活動（バイタルチェック、スヌーズレン、プール、手浴、足浴等）
- ②機能訓練（月2回の作業療法士による訓練指導及び日常のエクササイズ等）
- ③創作活動（さをり織り、組み紐、季節の創作、イベント開催時等の飾り付け等）
- ④園外活動（買い物、散歩、ラウンドワンボーリング等）
- ⑤音楽活動（カラオケ、音楽鑑賞、ハンドベル等）
- ⑥ゲーム活動（ポッチャ、風船バレー、サイコロゲーム、カードゲーム等）
- ⑦イベント（季節行事：年4回実施）

(5) 医療的ケア実施状況

内 容		人数
たんの吸引	口腔内	8名
	鼻腔内	7名
	気管カニューレ内部	5名
経管栄養	胃ろう	1名
	腸ろう	1名
	経鼻経管栄養	4名
胃ろう、腸ろうによる与薬		2名
ブジー		2名
合 計(延べ人数)		30名

(6) 在籍者状況（平成27年3月31日現在）

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数
平成26年度	22名	40.2歳	8.0年	85.3%	17.6名
平成25年度	22名	40.2歳	7.0年	89.9%	17.8名
平成24年度	24名	41.0歳	6.4年	88.0%	16.6名

平成26年度利用者 障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	18名	4名	0名	0名	0名	0名

5. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園<日中一時支援事業>

(1) 概要

- 平成26年度末現在、箕面市内だけでも10ヵ所、豊中市17ヵ所、吹田市16ヵ所、茨木市19ヵ所、池田市3ヵ所など、近隣他市でも事業所が設立されており、箕面市への現状報告と今後の事業の在り方に係る協議を継続して行った。
- 平成25年度に引き続き、利用者・家族の意向を踏まえて、社会適応訓練（自力通所に向けた支援：1名）を実施した。
- 平成25年度同様、他事業所と連携を図りながら、利用の公平性、利用者・家庭状況等に配慮した曜日の設定を行った。また活動内容に関しては、各曜日のサービスの均一化を図った。
- 近隣事業所（さんかくひろば）とサマーパーティーを実施（平成26年8月21日）し、他事業所と交流を深めるとともに利用者の情報共有を行った。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	平成26年度以降の事業の方向性を協議	○箕面市へ現状及び今後の課題（契約者数の減少、待機者0、民間事業者の急増）について、状況報告、協議を行った。結果、平成27年度より営業日を週5日から週3日へ変更することとなった。
2	社会適応訓練の実施	○平成26年度、新たに1名の社会適応訓練を実施し、自力通所に繋がった。
3	指定管理者アンケート結果を踏まえた対応 (1)-1 より多様な視点での意見の把握 (1)-2 家族への情報提供の機会の強化 (2) 職員の資質向上及び障害特性に係る専門性の獲得	○アンケート結果のフィードバックや定期的な内部での職員研修(月1回以上)等を実施することにより、職員の資質向上を図った。
4	専門職との連携	○自閉症等の障害特性については、瀬川地域で実施している支援アドバイザー相談において、助言、指導を仰いだ。 ○ささゆり園利用者全員が他事業のサービスと併用しているため、適宜、利用者の情報収集を行った。

(3) 今後について

- 平成27年度は契約者数が平成26年度に比べ4名減(26年度：15名、27年度：11名)となるため、箕面市との協議の結果、営業日に変更(週5日から週3日)となるが、本事業の実施内容・効果を検証し、新事業への移行又は事業の廃止を含めて箕面市と継続協議を行っていく(27年度は3名卒業、待機者も引き続き0となる予定)。
- 発達障害等への対応に関し、瀬川地域で導入している支援アドバイザーの助言を受けながら、個別の課題に応じた支援の在り方について実践・検証を行っていく。

(4) 主な活動内容

- ①健康活動 (散歩、プール、エアマット等)
- ②調理実習 (焼き菓子作り、昼食作り等)
- ③創作活動 (コットンスティックアート、ペットボトルキャップ創作、木工等)
- ④農園活動 (野菜、草花栽培等)
- ⑤園外活動 (公共交通機関の利用、買い物、図書館、亀岡運動公園プール等)

(5) 在籍者状況 (平成27年3月31日現在)

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数
平成26年度	15名	15.5歳	2.8年	75.5%	4.5名
平成25年度	24名	15.2歳	2.3年	85.8%	8.2名
平成24年度	25名	16.3歳	2.8年	84.7%	8.4名

平成26年度利用者 障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	0名	0名	0名	5名	5名	0名

※5名は障害程度区分未認定。療育手帳のみ所持。

5. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園<施設入浴サービス事業>

(1) 概要

- 事業の現状及び課題（利用年限・送迎・光熱水費等）を踏まえて、今後の事業の方向性について箕面市に報告・協議を行ったが、結論には至らなかった。
- 実施時間帯（平日夕方）、従事時間（1日2時間程度）の関係から、依然として従事者（登録ヘルパー）の確保が困難な状況にあり、不足分は生活介護の職員で対応した。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	平成26年度以降の事業の方向性を協議	○箕面市へ現状及び今後の課題について、状況報告を行ったが、結論には至らなかった。
2	新規利用者の募集、確保	○箕面市へ現状及び今後の課題（利用年限、送迎、光熱水費等）の報告を行った。 ○入浴の相談があった際は、ホームヘルパー、訪問入浴、基準該当サービスなど、何らかの社会資源を活用することにより、最大週6回まで自宅で入浴サービスを受けることができる等の情報提供を行った。
3	送迎体制の見直し	○生活介護の職員が実施している送迎を、一部シルバー人材センターに移行した。
4	人員確保と支援サービスの質的向上 (1)ヘルパーの安定的な確保 (2)支援サービスの質的向上	○ブログの活用、ビラ配布等を実施したが、安定的なヘルパー確保には至らなかったため、生活介護の職員による時差出勤にて対応した。 ○マニュアル化には至らなかったが、登録ヘルパーに対し、適時、安全・適切な身体介護技術の指導を行った。

(3) 今後について

- 本事業の実施内容・効果を検証し、事業の在り方について箕面市と継続して協議していく。
- 登録ヘルパーの確保（機関誌、ビラ配布、ブログ等の活用）に努めていく。
- 登録ヘルパーに依存しない従事体制の検討、生活介護の職員による時差出勤対応等を行い、引き続き安定的な事業運営を図っていく。

(4) 施設入浴サービス利用状況

	25年度	26年度	対前年度比
実施日数	244日	244日	100.0%
利用者数	735名	728名	99.0%
利用者数／1日	3.0名	3.0名	100.0%

6. 地域生活総合支援センター〈共同生活援助事業〉

(1) 概要

- 夜間支援体制加算の増額などにより、介護給付費収入では対前年度比約25%程度の増収となった。
- 箕面市消防本部立入検査の結果、第10つながりの家に自動火災報知設備及び消防機関に通報する設備の設置の必要があるとの指導を受け、その対応として転居することを前提に転居先の確保に努めたが、結果、転居先の確保には至らず、第10つながりの家に必要設備を設置することとなった。
- 家庭での主たる介護者の高齢化に伴い、帰宅時における対応が困難となる状況が年々増加しているため、従事体制の整備等を行い、新たに1カ所の住居（第5つながりの家）でほぼ365日運営の体制を整えた。

(2) 重点項目・課題解決の状況

計 画		実施結果
1	入居者の欠員補充	<ul style="list-style-type: none"> ○第5つながりの家の欠員(1名)補充に向けては、平成27年3月より体験宿泊を開始した。 ○第10つながりの家の欠員(2名)補充に向けては、転居後に行うこととしていたため、実施には至らなかった。
2	利用率向上に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○計画的な祝日の営業や入居者・家族からの営業日以外の利用希望についても対応を行うとともに、当該ホーム入居者全員に利用を働きかけた。
3	365日運営に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○平成27年2月より第5つながりの家において、祝日を除く週7日営業の従事体制を整えた。
4	入居者の高齢化・重度化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○居宅介護事業所と連携し、通院等介助を利用して適時対応を行った。 ○介護負担の増加から、家族よりグループホームの休業日に利用希望があった場合にも受け入れが可能となるよう従事体制の調整を行った。 ○成年後見人制度の利用促進に向けて継続的な働きかけを行ってきた結果、1名の利用者が後見人の選任を行った。
5	人員確保と職員育成	<ul style="list-style-type: none"> ○臨時職員・登録ヘルパーがショートステイ室及びグループホームの両事業に勤務する体制を整え、効率的な運営に努めたが、慢性的な人員不足の課題は解消されなかった。 ○世話人が普段困っているような課題などを抽出して、定例の世話人会議の中で事例検討を行うなどして、不安の軽減と支援スキルの向上を図った。

(3) 今後について

- 家庭における主たる介護者の高齢化により、週末や年末年始等の利用希望が今後も増加していくことが予測される。そのなかで、グループホームでの対応を基本としつつも、従事体制等の課題もあるため、関係機関との連携を深め、ショートステイや居宅介護事業の利用など様々な社会資源の活用を図っていく。
- 消防法の改正に伴い、自動火災報知設備及び消防機関へ通報する火災報知設備等の整備を平成30年3月末までに行う必要があり、補助金等の活用なども含めて適切に対応していく。
- グループホームの365日運営に向けて、人材確保が必須の課題であり、近隣大学等へ登録ヘルパーの勧誘活動を行うなど人材確保に引き続き取り組んでいく。
- グループホームでの生活の質的向上を図ることを目的として、移動支援事業の活用等も含め、余暇の充実に取り組んでいく。

(4) 在籍者状況 (平成27年3月31日現在)

	平均年齢	平均利用率	
		平成25年度	平成26年度
全体(33人)	43.5歳	79.6%	80.1%
女性(16人)	42.5歳	77.1%	77.0%
男性(17人)	44.5歳	82.1%	83.1%

6. 地域生活総合支援センター〈短期入所・日中一時支援事業〉

(1) 概要

- 強度行動障害のある利用者を長期継続的に受け入れるにあたり、安全に支援できるよう利用調整を行った結果、1日当たりの宿泊者数は前年度比減少となった。しかし、その他の日において宿泊体験利用の呼びかけ等の取り組みにより、延べ利用者数は前年度より増加し、介護給付費収入も前年度比100万円程度の増収となった。
- 虐待防止センターからの要請に基づく利用は前年度延べ109日であったが、今年度は延べ328日と約3倍に増加した。そのため、通常の支援体制では安全確保等が困難な利用者の受入の際には、職員を増員して対応した。
- 平成27年度からの利用受付方法の見直しや利用状況を随時ホームページ上に掲載するなど、利用者にとって「使いやすい」「わかりやすい」サービスに向けた取り組みの準備を行った。
- 日中一時支援事業については、放課後等デイサービスなどの社会資源の充実に伴って利用者数が年々減少傾向にあり、平成26年度も前年度比で減少した。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	利用者受入体制の検討・見直し	○夜勤2名体制(男女各1名)で対応可能な範囲で調整を行い、利用申し込みが少ない日には、宿泊体験利用登録者に斡旋調整し、利用者増につながるよう努めた。また、強度行動障害のある方の利用に際しては、通常の支援体制に1名増員して対応を行った。
2	必要な設備の修繕・新規導入	○就寝時の緊急対応用にコードレスチャイムや窓ガラス破損防止フィルム等の整備を行った。
3	人員確保と職員育成	○今年度も人材確保に努めたが、十分な確保に至らず、法人内の応援勤務で対応せざるを得なかった。 ○新入職員を日中施設で研修させるなどして、新入職員の早期育成に取り組んだ。

(3) 今後について

- 利用決定については利用者の介助度・相性・支援体制等を勘案して決定するが、利用状況を当福祉会ホームページ上に掲載するなど、「使いやすい」「わかりやすい」サービスにつながるよう取り組んでいく。
- セーフティネットとしての機能を充実していくため、「医療的ケア」を要する方の受け入れについて、関係機関と連携し検討していく。
- 登録ヘルパーの確保・育成を図り、安定した支援体制の構築に向けた取り組みを引き続き行っていく。
- 箕面市の補助に係るルール化について、引き続き検討・協議を行う。

(4) ショートステイ室利用状況

	平成25年度	平成26年度	対前年度比
1日あたり宿泊者数	4.06名	4.05名	99.8%
延べ利用者数 (1日平均)	2,510名 6.9名	2,665名 7.3名	106.2%
短期入所 延べ利用者数 (1日平均)	2,421名 6.6名	2,594名 7.1名	107.1%
日中一時 延べ利用者数 (1日平均)	89名 0.2名	71名 0.2名	79.8%

6. 地域生活総合支援センター

＜居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援事業＞

(1) 概要

- 居宅介護事業において、年度当初に第9つながりの家での身体介護を要する方の新規利用に伴い、居宅介護派遣時間の増加が大きな要因となって、前年度比で大幅な増収となった。
- 移動支援事業においては、前年度と同様の派遣状況であった。
- 有資格ヘルパー(特に男性)が不足している状況が続いており、新たなニーズの創出とその対応までには至っていない。派遣ニーズに応えられないケースが年間で7件あった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	グループホームにおける「居宅介護」の利用拡大	○新規入居者への居宅介護サービス派遣の開始や、既入居者2名と通院等介助の新規契約締結を行うなど、グループホームにおける「居宅介護」の利用拡大を行った。
2	有資格ヘルパー・従事者の確保	○継続して募集を行い、ヘルパーの新規登録は5名あったが、多くは実稼働には至らず、有資格者ヘルパー・従事者の十分な従事体制の確立には至らなかった。
3	通院等介助対応の見直し	○対応が困難な利用者の通院等介助支援において、登録ヘルパーに対して適時OJTを実施し、適切な支援スキル獲得に繋げた。

(3) 今後について

- グループホーム入居者や家族の高齢化・重度化に伴う居宅介護ニーズへの対応、またグループホームの運営日拡大に伴う週末余暇支援への対応に引き続き取り組んでいく。
- 継続して有資格ヘルパーの新規登録者の募集をしていく。また、既存の登録ヘルパーの育成のため、内部研修への参加の呼びかけ、外部から講師を招いての研修の検討・実施をしていく。
- 対応が困難な利用者の通院等介助支援において、登録ヘルパーに対するOJTを引き続き行っていく。

(4) ヘルパー派遣状況（平成27年3月31日現在）

単位：時間

	居宅介護				移動支援	
	通院等介助		同行援護	身体介護	I類	II類
	(身体介護あり)	(身体介護なし)			(身体介護あり)	(身体介護なし)
平成26年度	241.5	45.5	208.5	1,873.5	1,215.0	1098.5
平成25年度	203.0	41.5	251.0	1,287.5	1,133.0	982.5

※同行援護の派遣時間の減少要因は、継続利用されている利用者が一定期間、都合により利用されなかったためである。

6. 地域生活総合支援センター〈相談支援事業〉

(1) 概要

- 箕面市から受託している相談支援事業（市町村地域生活支援事業）については、引き続き障害者市民及びその家族等から375件（うち児童4件）の相談に対応した。実利用者数は217名で新規利用者は29名であった。
- サービス等利用計画の契約申し出がさらに増加し、待機者の解消には至らなかった。
- 障害福祉サービスの情報収集や利用状況等を適時把握し、福祉サービス利用に係る相談ケースに随時対応を行った。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	契約者(計画相談)拡大への対応 (1) サービス等利用計画の効率的作成 (2) モニタリングへの対応	○既契約者のモニタリングについては適時実施した。 ○サービス等利用計画については、18人との利用契約を行ったが、さらに多くの利用申込みが寄せられ、50名以上の待機者となった。
2	困難事例への対応 (1) 福祉サービスの利用につながっていない在宅の障害者市民への支援 (2) 虐待事例への対応	○障害福祉サービスの情報提供や事業所紹介等を状況に応じて適時行った。 ○家庭における親子間での対応困難なケースについて、その対応策としての短期入所利用等にかかる調整を適時行った。
3	箕面市地域自立支援協議会への参画	○自立支援協議会の運営会議、障害者就労系通所事業所情報交換会や相談支援事業所部会等に参加し、関係機関との連携を深めるとともに、箕面市内の障害福祉サービスにかかる情報提供の場としての「つながるフェア」にも参加した。
4	相談支援専門員の育成	○法人内の職員について、相談支援専門員の資格取得にかかる「現任研修」「初任者研修」「コース別研修」を適時受講した。
5	相談支援サービスのマニュアル化	○新たなマニュアルの整備には至らなかった。

(3) 今後について

- サービス等利用計画の作成待機者の解消に向けて、相談支援専門員の増員を行い対応していく。
- 虐待事例や困難事例の対応には、関係機関との連携を更に強化し、課題の解決にあたっていく。

(4) 相談状況（平成27年3月31日現在）

①経路別

単位：人

	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	合計
訪問	1(0)	23(0)	106(0)	0(0)	130(0)
来所	1(0)	8(0)	29(0)	0(0)	38(0)
同行	0(0)	0(0)	5(0)	0(0)	5(0)
電話	2(0)	48(0)	128(4)	0(0)	178(4)
電子メール	0(0)	0(0)	3(0)	0(0)	3(0)
個別支援会議	0(0)	3(0)	1(0)	0(0)	4(0)
関係機関	0(0)	2(0)	5(0)	0(0)	7(0)
その他	0(0)	2(0)	4(0)	0(0)	6(0)
合計	4(0)	86(0)	281(4)	0(0)	371(4)

※括弧内は児童の相談件数

②内容別

単位：人

	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	合計
福祉サービスの利用	3(0)	68(0)	250(4)	0(0)	321(4)
健康・医療	0(0)	8(0)	5(0)	0(0)	13(0)
不安解消・情緒安定	0(0)	1(0)	1(0)	0(0)	2(0)
家族関係・人間関係	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
家計・経済	0(0)	0(0)	2(0)	0(0)	2(0)
生活技術	0(0)	0(0)	5(0)	0(0)	5(0)
就労	0(0)	0(0)	1(0)	0(0)	1(0)
社会参加・余暇活動	0(0)	2(0)	1(0)	0(0)	3(0)
権利擁護	0(0)	3(0)	3(0)	0(0)	6(0)
その他	1(0)	4(0)	13(0)	0(0)	18(0)
合計	4(0)	86(0)	281(4)	0(0)	371(4)

※括弧内は児童の相談件数

7. 事故・苦情・ヒヤリハット等の状況

(1) 苦情解決システムに基づく対応

平成26年度、苦情解決システムに基づき対応した事案はなかった。

(2) 事故・苦情・ヒヤリハットの取りまとめ状況

①事故

内容	部署	件数	主な内容・原因	対応策
与薬・医療的ケアに関するもの	あかつき園・ワークセンター ささゆり	2件	内容 誤薬・与薬忘れ 原因 与薬管理・確認手段の不備	利用者の与薬状況に応じた、与薬・確認方法の改善・周知徹底
	ささゆり園 (生活介護)	3件	内容 医療機器の取り扱いに関すること、与薬忘れ 原因 医療機器の取り扱いに関する注意不足、与薬管理・確認不足	医療機器の適切な取り扱い方法の周知・徹底 与薬・確認方法の改善・周知徹底
	地域生活総合支援センター (ショートステイ)	1件	内容 服薬忘れ 原因 与薬管理・確認手段の不備	利用者の与薬状況に応じた、与薬・確認方法の周知徹底
合計件数		6件		

怪我	あかつき園・ワークセンター ささゆり	17件	内容 打撲・ねんざ・擦り傷・裂傷 原因 てんかん発作・環境の不備 職員の不注意、対応力不足	安全環境の整備・改善 職員の安全教育の徹底 利用者の行動特性にかかる危険予知・対応力の向上
	わんすてっぷ	4件	内容 打ち身 原因 安全環境の不備 職員の不注意	安全配慮の徹底 安全環境の整備
	ささゆり園 (生活介護)	1件	内容 打撲 原因 職員の不注意	利用者の行動特性にかかる危険予知・対応力の向上
	ささゆり園 (入浴)	1件	内容 打撲、擦過傷 原因 使用器具の取り扱いに関する職員の不注意	使用器具の適切な取り扱い方法の周知 安全配慮の徹底

内容	部署	件数	主な内容・原因	対応策
怪我	地域生活総合支援センター (GH)	3件	内容 打撲、裂傷 原因 安全配慮不足 身体機能の低下	安全配慮の徹底 安全環境の整備
	地域生活総合支援センター (ショートステイ)	2件	内容 打撲、内出血 原因 安全配慮不足	安全配慮の徹底 安全環境の整備
合計件数		28件		

他傷行為による怪我	あかつき園・ワークセンター ささゆり	20件 (内、職員が怪我を負ったもの6件)	内容 ひっかき傷、打撲 原因 安全配慮不足 利用者の状態把握不足 行動障害	安全配慮の徹底 利用者の心的状態を適切に把握 安全環境の整備 行動障害に関する支援スキルの向上
	わんすてっぷ	1件	内容 つねる 原因 利用者の心的状態把握不足	安全配慮の徹底 利用者の心的状態を適切に把握
	ささゆり園 (放課後)	3件	内容 噛みつき 原因 利用者の心的状態把握不足	障害特性に関する、支援スキルの向上
	地域生活総合支援センター (ショートステイ)	2件	内容 殴打による打撲 原因 利用者の心的状態把握不足 行動障害	安全配慮の徹底 利用者の心的状態を適切に把握 行動障害に関する、支援スキルの向上
合計件数		26件		

自傷行為による怪我	あかつき園・ワークセンター ささゆり	2件	内容 打撲・切り傷 原因 利用者の状態把握不足 行動障害	利用者の心的状態を適切に把握 行動障害に関する、支援スキルの向上
	わんすてっぷ	1件	内容 内出血 原因 利用者自身による無意識の行為	利用者の行動特性への適切な対応
合計件数		3件		

内容	部署	件数	主な内容・原因	対応策
器物破損	あかつき園・ワークセンター ささゆり	10件	内容 拘り行動や衝動的な行動による備品等を投げつける等 原因 利用者の状態把握不足 行動障害	安全配慮の徹底 利用者の心的状態を適切に把握 安全環境の整備 行動障害に関する支援スキルの向上
	地域生活総合支援センター (ショートステイ)	2件	内容 拘り行動や衝動的な行動により壁を殴ったり、備品を投げつける 原因 安全配慮不足 利用者の状態把握不足 行動障害	安全配慮の徹底 利用者の心的状態を適切に把握 安全環境の整備 行動障害に関する支援スキルの向上
行方不明	地域生活総合支援センター (GH)	1件	内容 グループホームからの外出時に利用者が一時、行方不明になった 原因 安全配慮不足 利用者の理解度に応じた伝え方の不備	利用者の理解度・行動特性に応じた情報提供 安全配慮の徹底
合計件数		13件		

その他、車両事故等	車両事故7件(前方または後方不注意) 職員への暴力行為等13件(あかつき園・ワークセンターささゆり) 利用確認不足による未利用1件(ショートステイ)
-----------	--

②苦情

部署	件数	内容	原因	解決状況
あかつき園・ワークセンター ささゆり	8件	利用者支援に関するもの(2件)	職員の配慮不足	謝罪及び支援方法の見直し
		家族との相談・連絡・調整に関するもの(5件)	職員の失念・確認不足 連絡帳の不適切な表現(配慮不足) 家族との連携不足	謝罪及び丁寧な説明や家族との連携の強化
		服薬管理に関するもの(1件)	服薬情報の更新忘れ	謝罪及び服薬情報の更新
ささゆり園 (園管理)	1件	指定喫煙場所以外での喫煙による近隣住民からの苦情	指定喫煙場所以外での喫煙(派遣職員)	当該職員への指導徹底
地域生活総合支援センター (ショートステイ)	1件	家族からの苦情	利用者の身体状況の把握、障害特性に応じた配慮の不足	謝罪及び利用者の身体状況の適時把握と障害特性に応じた支援の徹底
合計件数	10件			

③ヒヤリハット

部署	件数	内容
あかつき園・ワークセンターささゆり	14件	<ul style="list-style-type: none"> * 職員の不注意・安全配慮不足により怪我に至る恐れがあった事案(7件) * 無断外出・所在不明に至る恐れがあった事案(2件) * 障害特性により他傷行為に至る恐れがあった事案(2件) * 医療機器の適正な取り扱いの認識不足による不適切な使用につながる恐れがあった事案(1件) * 与薬ミスにつながる恐れがあった事案(2件)
わんすてっぴ	15件	<ul style="list-style-type: none"> * 職員の不注意・安全配慮不足により怪我に至る恐れがあった事案(10件) * 無断外出・所在不明に至る恐れがあった事案(2件) * 障害特性により他傷行為に至る恐れがあった事案(3件)
ささゆり園(生活介護)	3件	<ul style="list-style-type: none"> * 医療機器の取り扱いに関する事案(3件)
地域生活総合支援センター(GH)	12件	<ul style="list-style-type: none"> * 無断外出・所在不明に至る恐れのある事案(1件) * 障害特性により器物破損に至る恐れがあった事案(6件) * 障害特性により自傷行為に至る恐れがあった事案(5件)
地域生活総合支援センター(ショートステイ)	3件	<ul style="list-style-type: none"> * 職員の事務処理に関するミスにより利用者の物品の紛失に至る恐れがあった事案(1件) * 薬の確認不足により服薬不足に至る恐れがあった事案(1件) * 送迎に係る連絡・確認不足により送迎時間が遅延した事案(1件)
合計件数	47件	

8. 地域参加・交流状況

(1) 納涼祭 *法人自主事業

実施日時： 8月22日(金) 17:00~19:00
実施場所： 瀬川地区敷地内
地域参加者： 約380名
協力団体： 7団体
利用者参加者： 42名
職員従事者： 41名
内容： 盆踊り、ゲームコーナー、模擬店、抽選会など

(2) 西南ジャンボリー

実施日時： 8月30日(土) 14:00~17:45
実施場所： 西南小学校グラウンド
参加者数： 131名
実行委員会： 3回実施
職員従事者： 4名
内容： 車いす体験コーナー

(3) いきいきふれあい広場

実施日時： 11月8日(土) 10:00~14:30
実施場所： 西南公民館
利用者従事者： 1名
職員従事者： 5名
内容： 野菜、さをり製品等の販売

9. 職員研修実施状況

(1) 法人全体研修

実施日	研修内容	参加者数	講師
平成26年8月20日 平成26年9月19日	法人理念に基づく支援とは	97名	同志社大学社会学部教授 小山 隆氏
平成26年10月22日	「障害のある方たちの暮らし」について学ぶ	74名	後藤 美和子氏(箕面手をつなぐ親の会会員) 岸本 美智子氏(利用者ご家族)

(2) 事業・施設別研修参加状況

	平成25年度	平成26年度
法人本部	7名(3件)	3名(3件)
あかつき園・ワークセンター ささゆり	44名(15件)	74名(23件)
わんすてっぷ	5名(5件)	7名(7件)
ささゆり園	170名(30件)	258名(37件)
地域生活総合支援センター	16名(6件)	16名(5件)
合計	242名(59件)	358名(75件)

	研修内容
法人本部	社会福祉法人経営セミナー、男女雇用機会均等セミナーなど
あかつき園・ ワークセンター ささゆり	真報連相入門講座、広汎性発達障害の理解と支援、就労支援基礎講座、障害者虐待防止・権利擁護研修、箕面市人権セミナー、相談支援従事者初任者研修、感染症・食中毒予防講習会、集団給食研究会 高血圧予防講習会、特定給食講演会、2015防災シンポジウム、障害児者口腔ケア研修など
わんすてっぷ	動作法リラクゼーション講座、さをり織り指導者養成講座2014、平成26年度大阪府内の知的障がい者福祉関係職員に対する第3回機関研修会「地域活動支援センターしらさぎ・ネストの取り組み」、強度行動障害支援リーダー養成研修(実践報告会)、障害者の親として生きる、平成26年度レクリエーション研修会(障害コース)、平成26年度福祉人材の定着及びスキルアップ研修会など
ささゆり園	サービスマナー・セミナー初級、障がい児者施設課程(OJT基礎コース)、てんかん基礎講座、セルフケア研修、差別解消法研修、口腔ケア研修、喀痰吸引研修(実地研修)など
地域生活総合 支援センター	同行援護従事者養成研修(一般課程・応用課程)、GH世話人等研修、相談支援専門員現任研修・相談支援従事者専門コース別研修(強度行動障がい支援コース・医療的ケア支援コース)など

10. 実習生受入状況

(1) 進路支援に係る実習

受入施設	実習元	実人数	述べ人数	述べ日数	目的
あかつき園・ワークセンター ささゆり	箕面支援学校	2名	2名	2日	支援学校卒業後の進路先を検討するため
	豊中支援学校	5名	10名	10日	
わんすてっぷ	あかつき園・ワークセンターささゆり	1名	2名	2日	利用契約の可否を判断するため
	合計	8名	14名	14日	

(2) その他

受入施設	実習元	実人数	述べ人数	述べ日数	目的
あかつき園・ワークセンター ささゆり	箕面市	10名	34名	34日	福祉体験学習
	箕面学園福祉保育専門学校	2名	2名	2日	介護等体験実習
	箕面市立第3中学校	1名	1名	1日	職場体験実習
	龍谷大学	3名	15名	15日	介護等体験実習
	佛教大学				
わんすてっぷ	箕面市	8名	19名	19日	福祉体験学習
	箕面学園福祉保育専門学校	2名	2名	2日	体験実習
ささゆり園	箕面市	4名	18名	18日	福祉体験学習
	合計	30名	91名	91日	

11. ボランティア受入状況

事業・施設名	参加内容	参加回数	述べ参加者
あかつき園・ ワークセンター ささゆり	製袋作業	8回	8名
	農園作業	132回	520名
	日中活動	25回	25名
	所外活動・イベント	12回	44名
わんすてっぷ	日中活動	44回	44名
	所外活動・イベント	6回	10名
ささゆり園	コンサート、ポーセラーツなど	5回	30名
	合計	232回	681名

12. 視察・見学状況

(1) 受入状況

施設・事業	視察・見学元	人数	目的
あかつき園・ ワークセンターささゆり	箕面支援学校保護者・教員	15名	進路に係る社会資源の視察
	大阪大学学生	8名	施設見学
	大阪手をつなぐ育成会	2名	施設見学
	西南小学校教員	4名	施設見学・人権学習打合せ
	市立小中学校障害児介助員	10名	施設見学
	箕面支援学校教員	13名	施設見学・卒業生面会
	明光ワークス職員	3名	施設見学・情報交換
	箕面市進路保障協議会	4名	進路に係る社会資源の視察
	箕面教会オリーブの会	12名	施設見学
	デイセンター茨木	1名	施設見学・情報交換
	民生委員	13名	施設見学
	西南小学校	133名	人権学習
	わんすてっぴ	箕面教会オリーブの会	12名
箕面市		3名	施設見学
聖母被昇天学院中等部		3名	施設見学
ささゆり園	あいあい園	2名	施設見学
	大阪市立視覚特別支援学校	2名	施設見学
	ボランティア希望者	1名	施設見学
	あいほーぶ吹田	2名	施設見学
	豊中市立たちばな園	3名	施設見学
	合計	246名	

(2) 視察・見学実施状況

施設・事業	見学・視察先	人数	目的
あかつき園・ ワークセンターささゆり	デイセンター茨木	2名	進路移行支援のための情報収集
ささゆり園	兵庫県立福祉のまちづくり研究所	3名	施設見学
	株式会社おめめどう	3名	施設見学
	OPEN SPACEれがーと	3名	施設見学
	豊中市立たちばな園	3名	施設見学
	社会福祉法人さつき福祉会	2名	施設見学(新規開設グループホーム見学)
地域生活総合支援 センター	OPEN SPACEれがーと	1名	施設見学
	社会福祉法人さつき福祉会	2名	施設見学
	合計	19名	

13. 講師派遣状況

派遣先	件名	派遣講師
箕面市肢体不自由児者父母の会	夏期療育キャンプボランティア介護基礎講習会	上田梨紗
箕面支援学校	地域別福祉情報交換会	亀谷雅彦 姫ヶ迫文男

14. 役員名簿

(1) 理事

平成27年3月31日現在

役職	氏名	団体・職業等	役職名等	区分
理事長	永田 吉治	箕面ライオンズクラブ	理事	地域の福祉関係者
副理事長	西尾 英子	箕面手をつなぐ親の会	会長	地域の福祉関係者
理事	千馬 外代美	箕面市肢体不自由児者父母の会	副会長	地域の福祉関係者
理事	平井 博文	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	会長	地域の福祉関係者
理事	井上 義人	箕面市民生委員児童委員協議会	会長	地域の福祉関係者
理事	小山 隆	同志社大学社会学部	教授	学識経験者
理事	吉田 功	社会福祉法人暁光会 あかつき特別養護老人ホーム	施設長	地域の福祉関係者
理事	林 たかみ	箕面ロータリークラブ	理事	地域の福祉関係者
理事	森 輝和	箕面市身体障害者福祉会	副会長	地域の福祉関係者
理事	村田 尚記	箕面市健康福祉部	次長	行政関係者
理事	亀谷 雅彦	社会福祉法人あかつき福祉会 地域生活総合支援センター	所長	施設長

(2) 監事

平成27年3月31日現在

役職	氏名	団体・職業等	役職名等	区分
監事	寺内 勇	社会福祉法人翠明社 特別養護老人ホーム 照葉の里	監事	地域の福祉関係者
監事	南 悦司	箕面市会計室	会計管理者 兼 室長	行政関係者

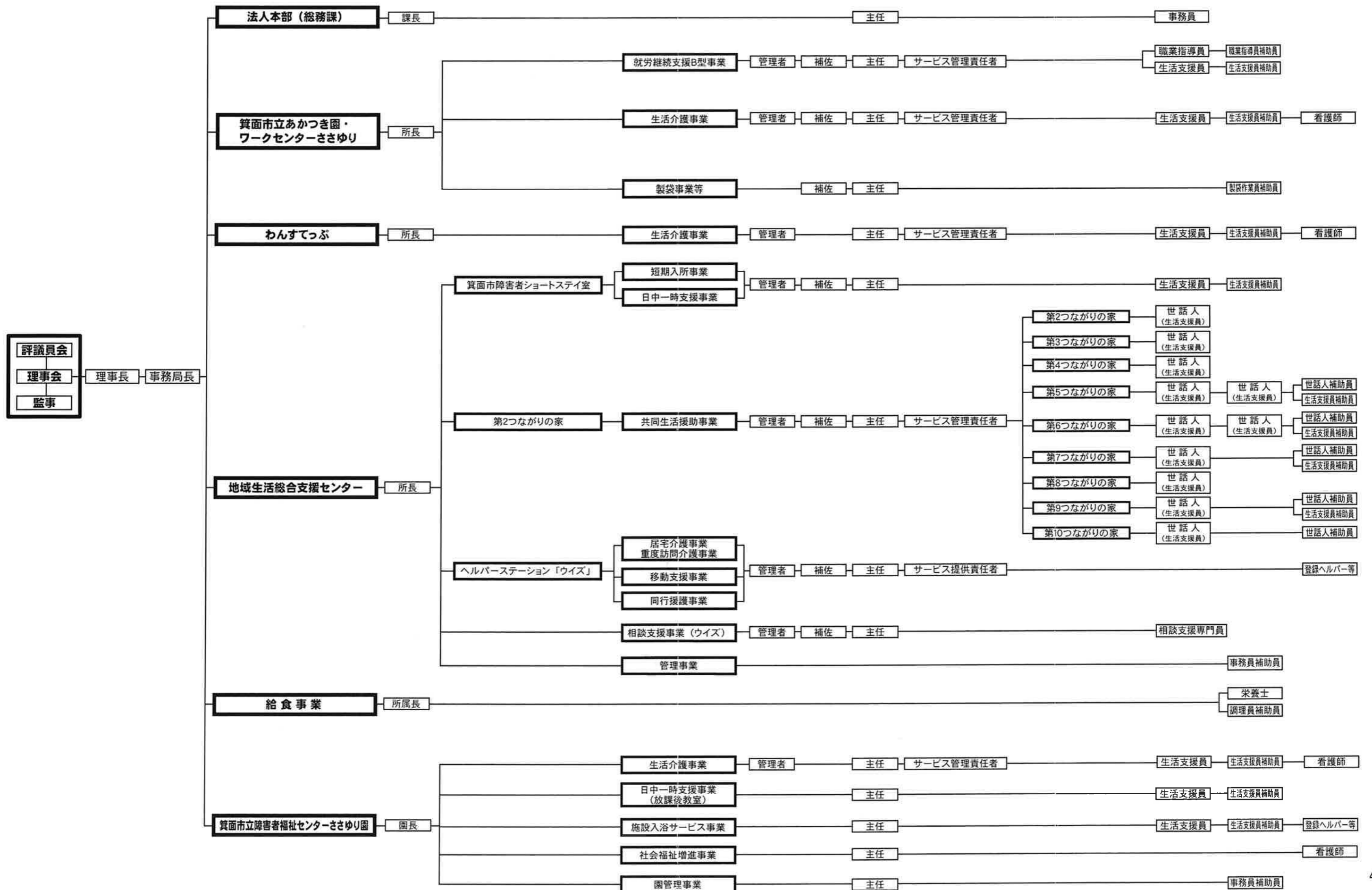
(3) 評議員

平成27年3月31日現在

役職	氏名	団体・職業等	役職名等	区分
評議員	牧野 史	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	常務理事	地域の福祉関係者
評議員	甲斐 節男	西南小地区福祉会	会長	地域の福祉関係者
評議員	石田 宇佐美	箕面市民生委員児童委員協議会	元地区委員長	地域の福祉関係者
評議員	下司 良一	一般財団法人箕面市障害者事業団 就労支援課	課長	地域の福祉関係者
評議員	久代 美津恵	箕面市身体障害者福祉会	副会長	地域の福祉関係者
評議員	名淵 須和子	箕面手をつなぐ親の会	副会長	地域の福祉関係者
評議員	高橋 栄子	箕面市肢体不自由児者父母の会	幹事	地域の福祉関係者
評議員	前田 比呂志	社会福祉法人大阪府社会福祉事業団 特別養護老人ホーム白鳥荘	施設長	地域の福祉関係者
評議員	須郷 紳弘	社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団 明光ワークス	所長	地域の福祉関係者
評議員	植田 恵美子	社会福祉法人 息吹	理事長	地域の福祉関係者
評議員	山中 剛司	箕面ロータリークラブ	社会奉仕委員会 委員長	地域の福祉関係者
評議員	爲永 順子	箕面商工会議所	副会頭	地域の福祉関係者
評議員	日根 真理	箕面市西南小校区青少年を守る会	会長	地域の福祉関係者
評議員	多田 育雄	NPO法人箕面ラポール	監事	地域の福祉関係者
評議員	後藤 統雄	箕面市赤十字奉仕団	常任理事	地域の福祉関係者
評議員	寛 加代	社会福祉法人あおば福祉会 瀬川保育園	園長	地域の福祉関係者
評議員	村西 啓二	大阪府立箕面支援学校 進路指導部	副部長	学識経験者
評議員	浅岡 建三	浅岡・瀧法律会計事務所	弁護士	学識経験者
評議員	長谷川 千波	箕面市健康福祉部障害福祉課	課長	行政関係
評議員	江口 寛	箕面市人権文化部人権施策推進課	課長	行政関係
評議員	野本 淳子	箕面市教育委員会事務局子ども未来 創造局人権教育課	課長	行政関係
評議員	加藤 隆之	社会福祉法人あかつき福祉会 箕面市立障害者福祉センターささゆり園	園長	地域の福祉関係者
評議員	古川 伸吾	社会福祉法人あかつき福祉会 箕面市立障害者自立支援センター (箕面市立あかつき園・ワークセンターさ さゆり)	所長	地域の福祉関係者

15. 平成26(2014)年度組織図

平成27年3月31日現在



16. 平成26(2014)年度職員内訳

平成27年3月31日現在

部局名	正規職員	支援職員	臨時職員	合計
法人本部	4名	3名	0名	7名
あかつき園・ワークセンターささゆり	8名	11名	38名	57名
わんすてっぷ	1名	1名	3名	5名
障害者福祉センターささゆり園	3名	6名	21名	30名
地域生活総合支援センター	3名	16名	15名	34名
厨房	0名	1名	6名	7名
合計	19名	38名	83名	140名

注1) 法人本部の支援職員には、障害者職員を含む

注2) あかつき園・ワークセンターささゆりには、製袋担当職員を含む

注3) 厨房の支援職員は、障害者職員を含む

注4) 臨時職員数には、バス添乗等の短時間勤務職員を含む

注5) その他、登録ヘルパー約33名(実質稼働者数)